

[illegible]

14
受水設備

15
排水設備

⑬
当
緒
保
温
仕
様

管類

給排水衛生設備

管類

管類については○印を塗りつぶしたものを適用する

空室設備工事（冷温水管）

一
般
風
道

排煙風道

煙道

※ホリスチレンフォーム保温高及びロックウール保温高又は、保温板の使用が困難な箇所は、ロックウールフェルトを使用してもよい。
※ ストレーナー・弁の保温は、屋内屋外ともビスなどにより容易に着脱できる構造とすること。
※ 防火扉面を貫通する管の保温は、その貫通する部分をロックウール管保温とする。
※ 蒸気管、温水管の保温は、ポリエチレンフィルムを被覆。
※ スパイラルダクト（フランジ部を除く。）の保温は、グラスウール保温板32K使用してもよい。
※ Oダクトが室内空調空間を経由する場合は保温すること。
※ 全熱交換器の一次側OA、EAダクトは保温工事を施すこと。
※ ドレン管の保温は、排水管の項による。

17
住
宅
保
温
仕
様

給排水衛生設備

管類

管類については○印を塗りつぶしたものを適用する

※硬質塩化ビニル管及び鋼鉄管のコンクリート、地中埋設部分は防食施工しない。
※ サニタリーペント及び油気管の屋内露出部分は塗装する。
※ 屋内露出（便所）の通気管は塗装する。
※ コンクリート貫通部分には、防食処理を行う。
※ 間仕切壁（PL板除く）貫通の場合は両側にプラスチックプレート取付のこと。
※ 支持金物仕様PS内（鋼製）、屋外（SUS製）、その他（樹脂製）とする。
※ 金物ヘッダー工法におけるヘッダー管は保温を行うこと。
※ 給湯器接続用フレキは保温チューブにて保温すること。

18	建設副産物の処理について	<p>資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。</p> <p>現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。</p> <p>また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。</p> <p>工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。</p>																								
		<table><tr><th>指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）</th><th>その他の副産物</th></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">・がれき類（コンクリート塊）（アスファルト塊）・木くず・汚泥</td><td><ul style="list-style-type: none">・廃プラスチック・ガラス、陶磁器くず・廃石こうボード・金属くず・鐵雑くず</td></tr></table> <p>特別管理産業廃棄物</p> <ul style="list-style-type: none">・廃石棉等 <p>１．除去処理</p> <p>アスベスト含有保温材等（煙突用断熱材は除く）の除去は可能なかぎり粉じん飛散抑制剤で十分に湿潤化した後、手ばらしで行う事。手ばらし以外の除去（グループパック方式による除去は除く）の場合は、「改修仕様」9.1.3および「改修指針」9.1.3による。</p> <p>２．汚染物処分</p> <p>（１）除去したアスベスト含有保温材等の処理方法は、「改修仕様」9.1.3（b）（２）及び「改修指針」9.1.3（b）（２）により、密封処理する。</p> <p>（２）施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を廃所から移動する場合は、掘重機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させない事。なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分等については、「改修仕様」9.1.3（c）及び「改修指針」9.1.3（c）による。</p> <ul style="list-style-type: none">・廃PCB等 <p>「電気事業法：電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・提出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。</p> <p>※参考受入場所は現場説明書による</p>	指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物	<ul style="list-style-type: none">・がれき類（コンクリート塊）（アスファルト塊）・木くず・汚泥	<ul style="list-style-type: none">・廃プラスチック・ガラス、陶磁器くず・廃石こうボード・金属くず・鐵雑くず																				
指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物																									
<ul style="list-style-type: none">・がれき類（コンクリート塊）（アスファルト塊）・木くず・汚泥	<ul style="list-style-type: none">・廃プラスチック・ガラス、陶磁器くず・廃石こうボード・金属くず・鐵雑くず																									
建設副産物の処理内容																										
<table><tr><th>処 理 内 容</th><th>備 考</th></tr><tr><td>現場内における分別</td><td></td></tr><tr><td>現場内分別保管場所の設置</td><td></td></tr><tr><td>現場内分別保管場所までの運搬</td><td></td></tr><tr><td>分別保管場所からの積み込み・運搬・処分</td><td></td></tr><tr><td>「建設副産物の処置計画書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr><tr><td>「建設副産物の処理結果報告書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr><tr><td>「再生資源利用計画書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr><tr><td>「再生資源利用実施書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr></table>			処 理 内 容	備 考	現場内における分別		現場内分別保管場所の設置		現場内分別保管場所までの運搬		分別保管場所からの積み込み・運搬・処分		「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要	「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要	「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要	「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要						
処 理 内 容	備 考																									
現場内における分別																										
現場内分別保管場所の設置																										
現場内分別保管場所までの運搬																										
分別保管場所からの積み込み・運搬・処分																										
「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要																									
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要																									
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要																									
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要																									
19	フロン処理について	<p>「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従い処理すること。</p> <div><div><p>発注者（施設管理者）</p><p>↓</p><p>業務用冷空調機器の有無の事前確認等の協力委託確認書</p><p>↓</p><p>工事請負業者</p><p>↓</p><p>フロン類引渡回収・運搬、破壊費用支払委託確認書</p><p>↓</p><p>第1種フロン類充てん回収業者</p><p>↓</p><p>フロン類破壊・再生業者</p></div><div><p>業務用冷空調機器の有無の確認確認結果を書面で説明</p><p>フロン回収証明書</p><p>引取証明書、業者登録書のコピー</p><p>引取証明書、業者登録書のコピー</p><p>引取証明書</p><p>引取証明書、業者登録書のコピー</p><p>・・・フロン類回収・運搬</p><p>・・・フロン類破壊処理、一部再生利用</p></div></div> <p>※ 工事請負業者は、第1種フロン類充てん回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、引取証明書及び第1種フロン類充てん回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図書に添付のこと。</p> <p>※ 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）に該当する機器（ルームエアコン等）については、適切に処理し、管理票（家電リサイクル券）を竣工図書に添付すること。</p>																								
20	中水道配管設備	<table><tr><th>配管等</th><th>※塗装できない管にはテープ巻きを施すこと</th></tr><tr><td>雨水一般配管</td><td> ・塩ビライニング鋼管（SGP-VA） ・塩ビライニング鋼管（SGP-VB） ・水道用耐酸性破壊強化ビニル管（H1VP）（屋内） ・鉄管（型） ・ステンレス鋼管（SUS）（・圧縮接合・溶接接合・拡管接合）</td></tr><tr><td>ビッド内配管</td><td> ・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD）</td></tr><tr><td>屋内地中配管</td><td> ・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ※ポリルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。</td></tr><tr><td>屋外地中配管</td><td> ・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ・水道用耐酸性破壊強化ビニル管（H1VP） ・水道用耐酸性破壊強化ビニル管（VP） ※ポリルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。 ・ポリエチレン管（PE）（・溶着接合・金属継手接合）</td></tr></table> <p>３ 誤接続の防止対策</p> <table><tr><th>配 管 等</th><th>※塗装できない管にはテープ巻きを施すこと</th></tr><tr><td>屋内隠ぺい配管</td><td> １．保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。</td></tr><tr><td>屋内・屋外露出配管</td><td> １．保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の要所には「処理水」と表示する。</td></tr><tr><td>地中埋設部</td><td> １．埋設前の裸管に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。</td></tr><tr><td>コンクリート内埋設部の配管</td><td> ２．「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地中埋設部）</td></tr><tr><td>メーター</td><td> １．メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 ２．メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。</td></tr><tr><td>バルブ等</td><td> １．バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。 ２．バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け「処理水」の等であることが識別できるようにする。 ３．地中埋設バルブの披露は「処理水」入りを使用すること。</td></tr></table> <p>注）若草色とは黄緑色をいう。 処理水用の若草色表示テープ、黄色の埋設標識テープは福岡市管工事組合に常備。 井戸水を雑用水として使用する場合は、上表において「若草色を紫色に」、「処理水を雑用水」と読みかえる。</p>	配管等	※塗装できない管にはテープ巻きを施すこと	雨水一般配管	・塩ビライニング鋼管（SGP-VA） ・塩ビライニング鋼管（SGP-VB） ・水道用耐酸性破壊強化ビニル管（H1VP）（屋内） ・鉄管（型） ・ステンレス鋼管（SUS）（・圧縮接合・溶接接合・拡管接合）	ビッド内配管	・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD）	屋内地中配管	・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ※ポリルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。	屋外地中配管	・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ・水道用耐酸性破壊強化ビニル管（H1VP） ・水道用耐酸性破壊強化ビニル管（VP） ※ポリルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。 ・ポリエチレン管（PE）（・溶着接合・金属継手接合）	配 管 等	※塗装できない管にはテープ巻きを施すこと	屋内隠ぺい配管	１．保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。	屋内・屋外露出配管	１．保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の要所には「処理水」と表示する。	地中埋設部	１．埋設前の裸管に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。	コンクリート内埋設部の配管	２．「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地中埋設部）	メーター	１．メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 ２．メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。	バルブ等	１．バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。 ２．バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け「処理水」の等であることが識別できるようにする。 ３．地中埋設バルブの披露は「処理水」入りを使用すること。
配管等	※塗装できない管にはテープ巻きを施すこと																									
雨水一般配管	・塩ビライニング鋼管（SGP-VA） ・塩ビライニング鋼管（SGP-VB） ・水道用耐酸性破壊強化ビニル管（H1VP）（屋内） ・鉄管（型） ・ステンレス鋼管（SUS）（・圧縮接合・溶接接合・拡管接合）																									
ビッド内配管	・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD）																									
屋内地中配管	・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ※ポリルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。																									
屋外地中配管	・塩ビライニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ・水道用耐酸性破壊強化ビニル管（H1VP） ・水道用耐酸性破壊強化ビニル管（VP） ※ポリルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。 ・ポリエチレン管（PE）（・溶着接合・金属継手接合）																									
配 管 等	※塗装できない管にはテープ巻きを施すこと																									
屋内隠ぺい配管	１．保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。																									
屋内・屋外露出配管	１．保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の要所には「処理水」と表示する。																									
地中埋設部	１．埋設前の裸管に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。																									
コンクリート内埋設部の配管	２．「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地中埋設部）																									
メーター	１．メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 ２．メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。																									
バルブ等	１．バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。 ２．バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け「処理水」の等であることが識別できるようにする。 ３．地中埋設バルブの披露は「処理水」入りを使用すること。																									
4	試験	<p>誤接続がないことを確認するため衛生器具等の取付完了後、系統毎に着色水を用いた漏水試験等を行う。</p>																								

図1 防火区画等貫通部措置

給水管、排水管及び通気管等が防火区画等を貫通する場合の措置は、建築基準法施行令第129条の2の4第1項第7号に規定されており、次のいずれかに該当すること。

- 防火区画等の貫通部分及び両側1m以内を不燃材料で造ること。（右参考図参照）
※ 耐火二層管は不燃材料に該当せず、後述の3.に従う。
- 平成12年建設省告示第1422号に適合すること。（下表）
（耐燃材料又は硬質強化ビニル管（VP）を用いる場合）

用途	覆いの有無	肉厚	給水管等の外径		
			防火構造	30分耐火構造	1時間耐火構造
給水管		5.5mm以上	90mm(75)		
		6.6mm以上	115mm(100)		
排水管及び排水管に付随する通気管	無し	4.1mm以上	61mm(50)		
		5.5mm以上	90mm(75)		
		6.6mm以上	115mm(100)		
		5.5mm以上	90mm(75)		
		6.6mm以上	115mm(100)		
		7.0mm以上の鉄板の覆い有り	141mm(125)	115mm	90mm

※表中の（ ）内は適合可能な硬質強化ビニル管（JIS K 6741のVU管を除く）の呼び径寸法を示す。
※呼称寸法未満の給水管等については、JISに適合した硬質強化ビニル管であれば、表中の肉厚に満たなくても同一の性能を有しているものとして取り扱う。

- 国土交通大臣の認定を受けたものであること。

例1）硬質ポリサイクル管（RF-VP）は防火区画貫通部措置用テープを用いる場合（右参考図参照）

例2）耐火二層管を認定条件に従って施工する場合
（立管はすべて耐火二層管とし、横管は立管の分岐から1mまでを耐火二層管とし、その延長部分を硬質強化ビニル管とした場合など）

図2 機器の吊り施工例

吊り長さが700mm以上、かつ重量10kg以上の設備機器については四隅を鉛直吊りボルトで支持し、隣り合う2本毎にX状斜材を締め具で堅固に取り付けて、天井との相関変位を抑制すること

対象 吊り長さ $L \geq 700$ mm
機器重量 $W \geq 10$ kg

※ ただし、

- 天井吊形のファンコイル
- 天井吊形又はカセット形の空気調和機室内機
- 天井隠ぺい形全熱交換ユニット

の設置は、上記にかかわらず全て吊り用ボルトで行い、振れ止めを施したものとする

図3 配管埋設参考

埋設深さH・・・

- 300以上
- 600以上
- 以上

図4 弁例

VC-1～VC-5

VC-P

記号	弁の呼び径	B	B	T	t'	t''	ふた
VC-P	25 以下	200φ	—	—	—	—	B 1
VC-1	40 以下	180x180	550	75	75	75	B 1
VC-2			850	100	100	100	
VC-3	50・80	300x300	700	100	100	120	MHA-P300
VC-4			900	100	120	120	
VC-5	100・200	450x450	1,200	120	120	120	MHA-P450

注（イ）本表のB及びH寸法は、5K仕切弁を対象とする。
（ロ）コンクリート部には、必要に応じて鉄筋を入れる。なおコンクリート部は工場製品でもよい。
（ハ）樹底部には、必要ある場合は、水抜管を設ける。

図5 異種金属接続部

異種金属接続部は、屋外埋設配管を除き電食防止のため、異種金属接続用絶縁継手を使用すること。使用箇所例を下記に示す。

1. 砲金製バルブと塩ビライニング鋼管接続部（コア入りバルブは除く。）

2. 衛生器具（水栓類、便器、洗面器等）接続管と塩ビライニング鋼管接続部

3. マイクロエアヘッド及びエアセパレーターと塩ビライニング鋼管接続部

絶縁エルボ又は絶縁オスメスソケットを使用すること。

4. 水道メーター（砲金）、伸縮弁（砲金）、伸縮メーターユニオン（砲金）と塩ビライニング鋼管接続部

5. 水抜きテスト弁と塩ビライニング鋼管接続部

6. 上記以外の異種金属接続部

表1 厨房排気ダクトの板厚

厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚については、以下による

（単位：mm）

ダクトの長辺	板厚	
	亜鉛鉄板	ステンレス鋼板
450以下	0.6以上	0.5以上
450を超え1,200以下	0.8以上	0.6以上
1,200を超え1,800以下	1.0以上	0.8以上
1,800を超えるもの	1.2以上	

※ 原則、アングルフランジ工法にてシールを施すこと

参 考 図

参考図1 水槽埋設図


参考図2 ドロップ樹参考図

（※副管サイズは主管サイズより1サイズ下でも可。）

参考図3 小口径樹取付要領図

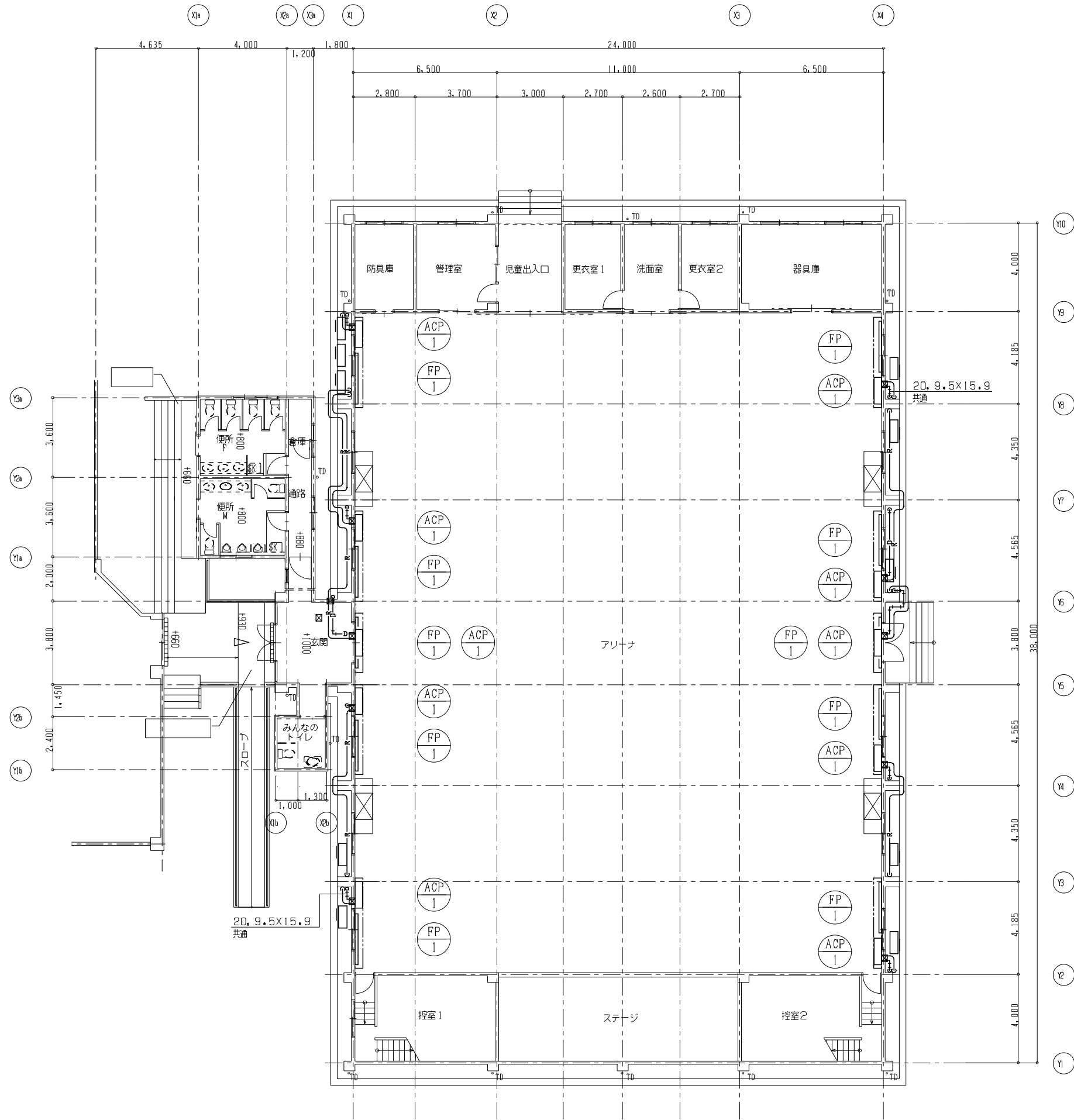
令和 年 月 日		特記仕様書ー2	
工事名称	小野小学校・花鶴小学校体育館空調設備設置工事	図番	M / 02 号
工事場所	福岡県古賀市米多比1390-2・福岡県古賀市花鶴丘1丁目21	設計者氏名	1級建築士 西幸博 国土交通大臣登録 第361265号
設計者事務所名	株式会社 甲山建築設計事務所 福岡県知事登録 第1-10924号	設計者及び所在地	福岡市早良区高取2丁目18-6

凡例


記 号	名 称	仕 様	規 格	備 考
— R —	冷媒管	屋内一般用：冷媒用断熱材被覆銅管 ※屋外 化粧ケース JIS H 3300		
— D —	ドレン管	屋内一般用：硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741		屋内一般用：GWt=20
		屋外配管用：硬質ポリ塩化ビニル管（カラーVP） JIS K 6741		
	集中リモコン			
-----	空調機用渡り配線	EM-CEES1.25°-2C（冷媒管共巻）		
-----	空調機用集中リモコン配線	EM-CEES1.25°-2C		

機器表

記 号	名 称	仕 様	電 気 仕 様			設 置 場 所	台 数	備 考
			φ	V	kW			
<div>ACP 1</div>	空冷ヒートポンプ	壁掛形 ペアタイプ 冷房消費電力 3 200 3.08	3	200	3.08	アリーナ	10	
	パッケージエアコン	冷房能力 10.0（～11.2）kW 暖房設備 11.2（～12.5）kW 暖房消費電力 3 200 4.23	3	200	4.23			
		フィルター、防球格子、防振ゴム、屋外機用コンクリートブロック基礎、転倒防止金物（SUS製）						
		屋外機保護ガード、その他付属品共						
<div>FP 1</div>	輻射パネル	壁掛形 指定色：白色				アリーナ	10	
		防球格子共						
<div>CC 1</div>	集中リモコン	集中管理コントローラー	1	100		児童出入口	1	
		最大3グループ（10台）毎の運転／停止						
		全グループ一括運転／停止						
		各室温設定、風向設定、リモコンボックス共						
	空調制御盤	コード決済	1	100		児童出入口	1	
		注記1.電気容量は参考とする。						
		2. ACPの能力及び消費電力は、JIS B 8616に規定された定格条件による。						
		3. 屋外機への電源送りは電気工事とする。						
		4. パッケージエアコンの屋内外渡り配線配管冷媒着込みとし本工事とする。						
		5. 空調機の冷媒がR410又はR32機種とする。						
		6. グリーン購入法適合品とする（50.4kW以下）。						
		7. 2015年省エネ基準適合品とする。						

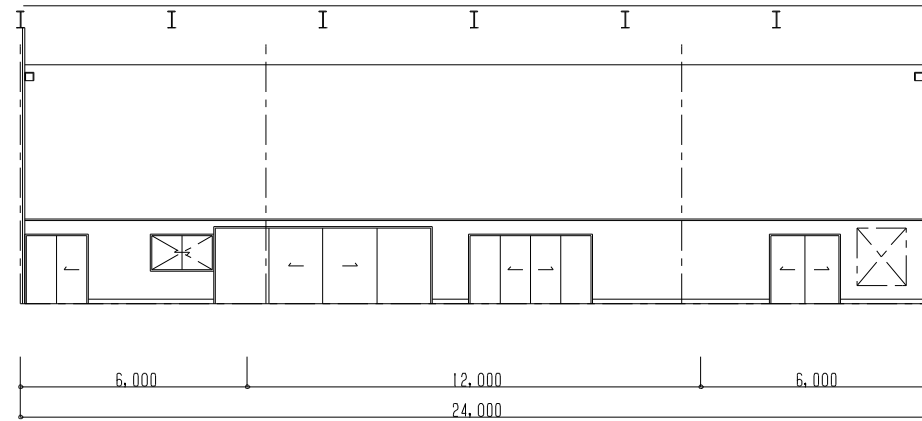


空調設備 1階平面図

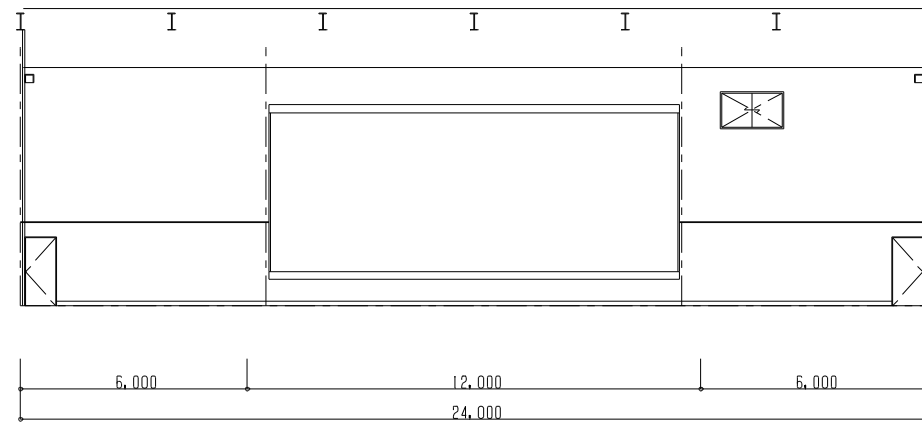
注1) 図中、はダイヤモンド穿孔箇所を示す(125φ×150L×11箇所)※尚、施工の際には鉄筋検査を行うこと。

株式会社 甲山建築設計事務所
〒109-2402 東京都港区麻布2丁目18-6
1階連絡口 第361265号 西 幸 博

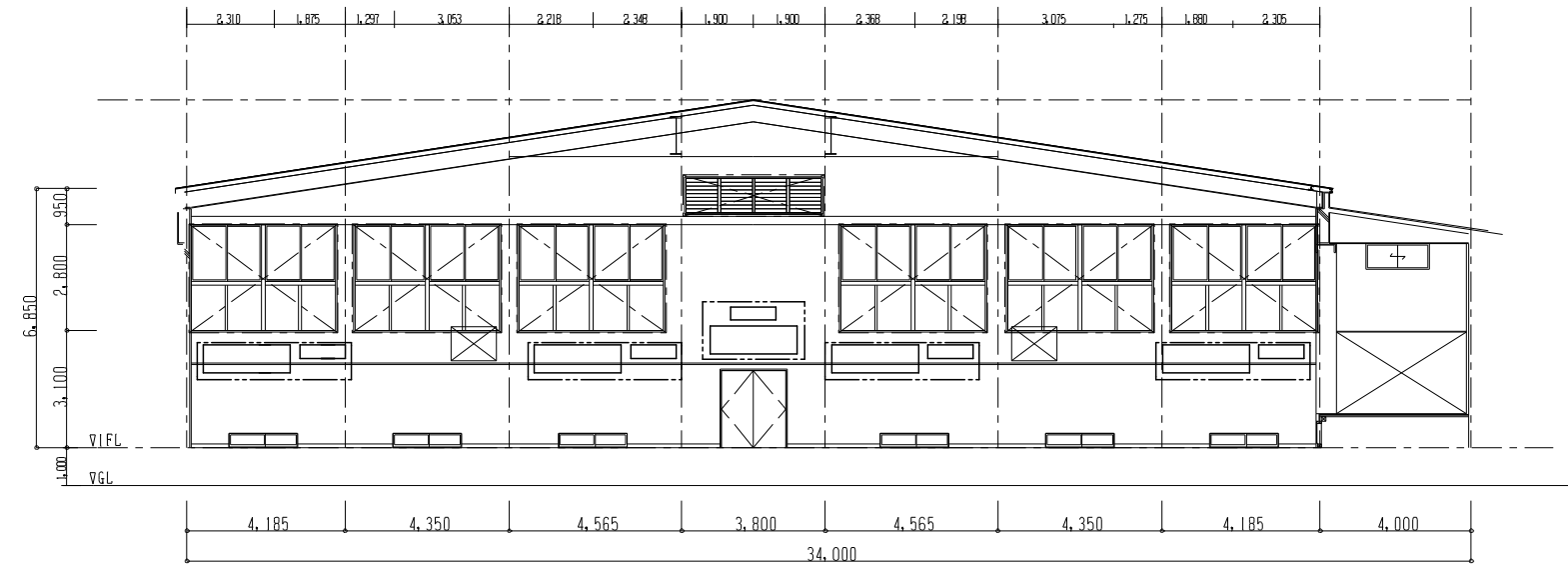
工事名	小野小学校・花籠小学校体育館空調設備設置工事		
図面名	小野小学校 空調設備 1階平面図	縮尺 A1:1/100	
古賀市			日付 令和7.3 M-05



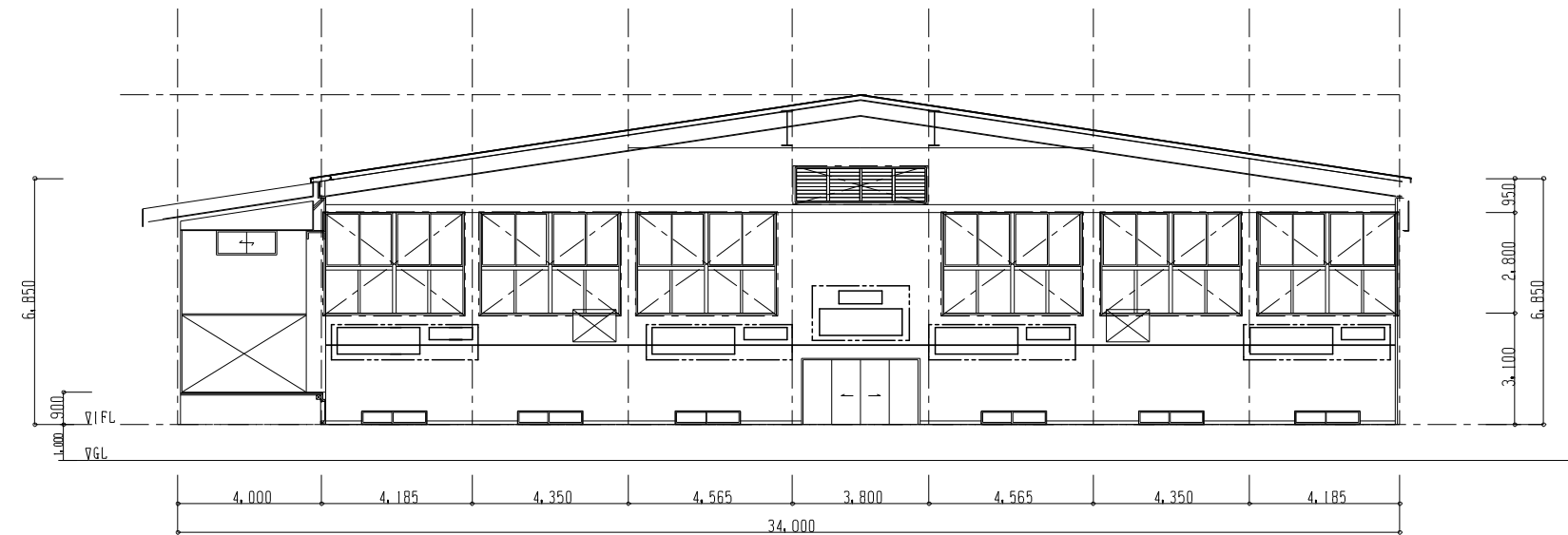
A面展開



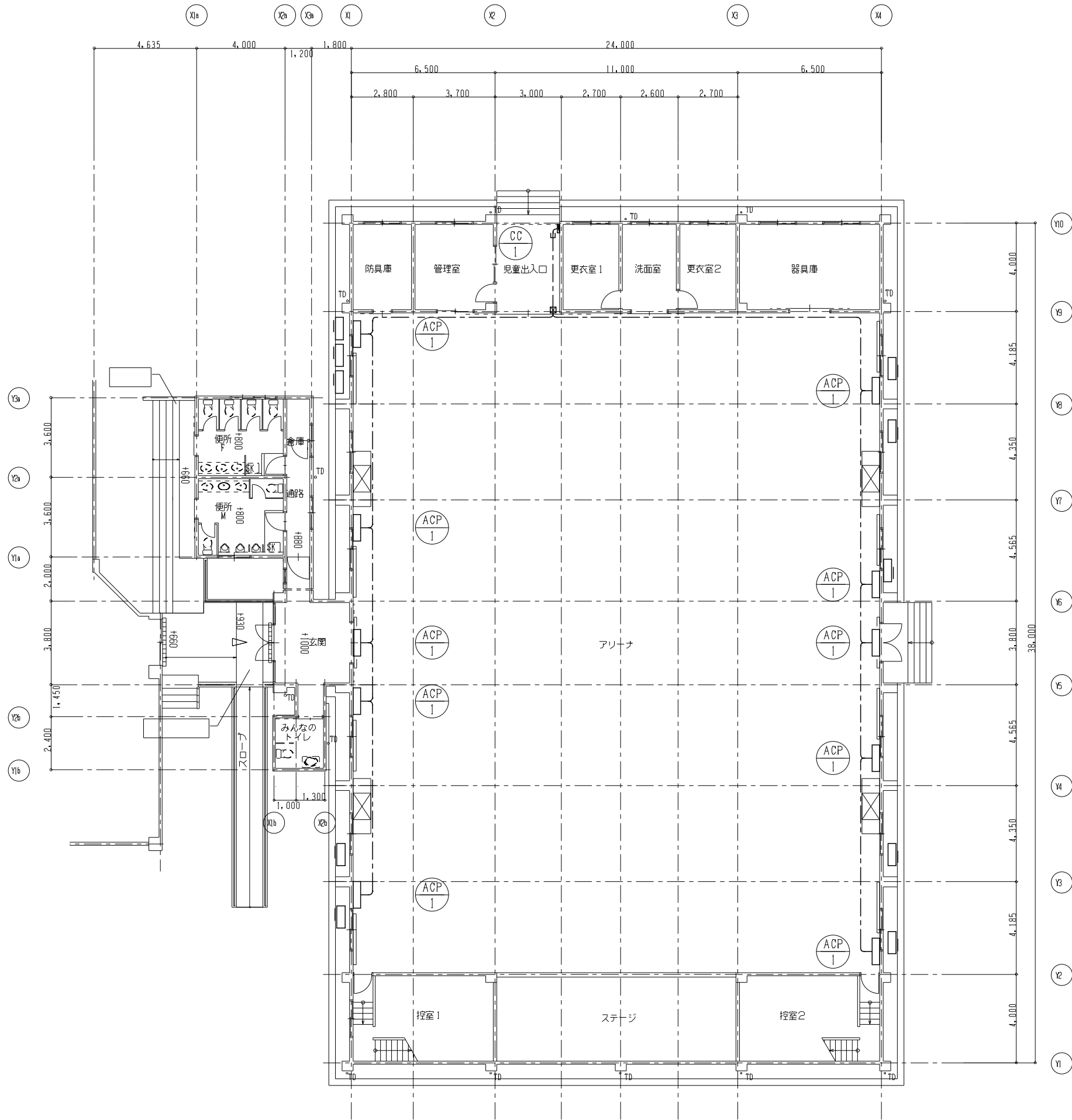
C面展開図




B(東)面展開図



D(西)面展開図




自動制御設備 1階平面図

注1) 図中、はダイヤモンド穿孔箇所を示す(50φ×150L×1箇所)※尚、施工の際には鉄筋検査を行うこと。
注2) 空調機用集中リモコン配線は冷媒共巻とする。

株式会社 甲山建築設計事務所
〒109-2404 東京都港区麻布2丁目18-6
1級建築士 第361265号 西 幸 博

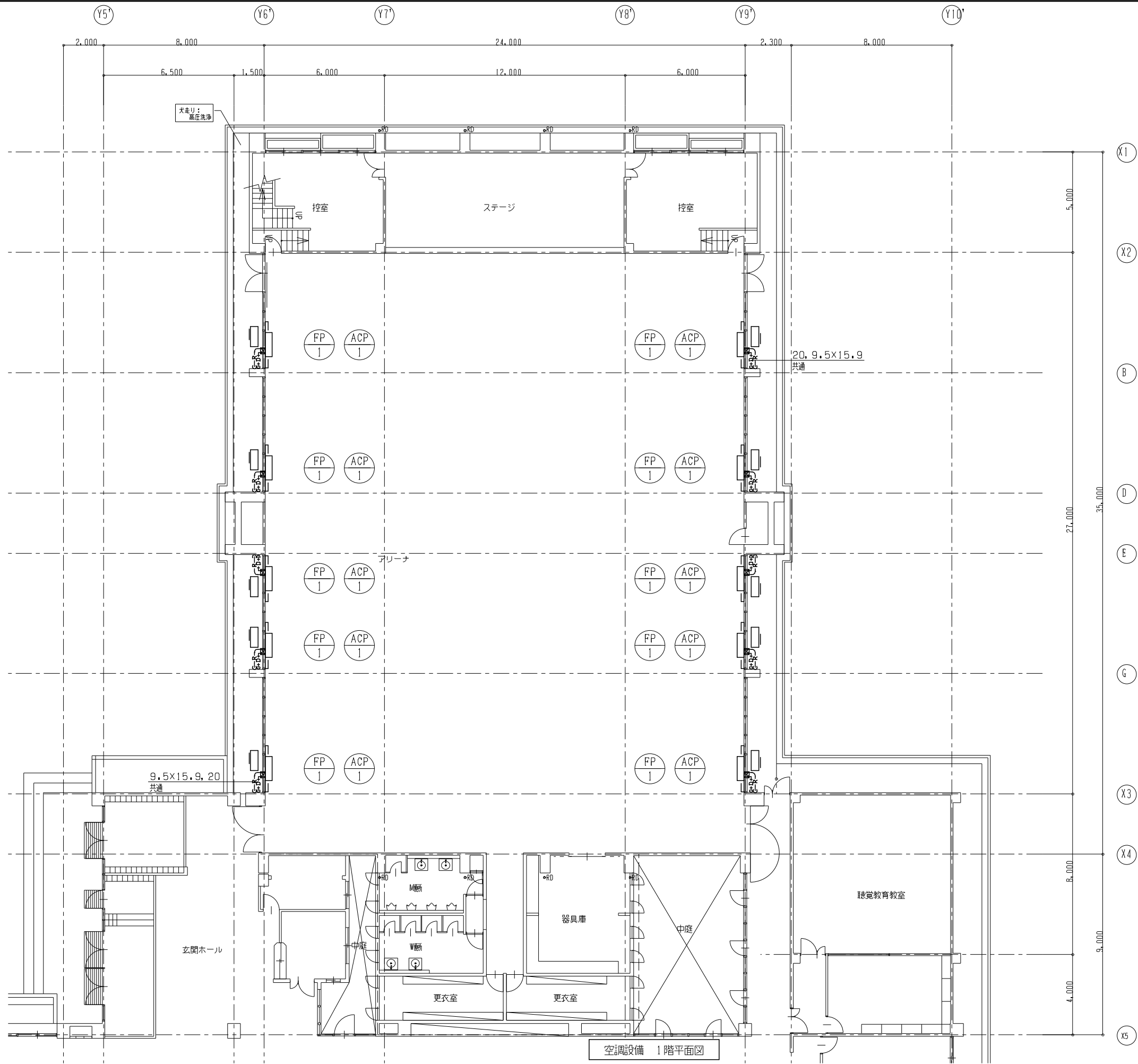
工事名	小野小学校・花籠小学校体育館空調設備設置工事	
図面名	小野小学校 自動制御設備 1階平面図	縮尺 A1:1/100
古賀市	日付 令和7.3 M-07	


凡例

記 号	名 称	仕 様	規 格	備 考
— R —	冷媒管	屋内一般用：冷媒用断熱材被覆銅管 ※屋内・屋外 化粧ケース JIS H 3300		
— D —	ドレン管	屋内一般用：硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741		
		屋外配管用：硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741		
	集中リモコン			
-----	空調機用渡り配線	EM-CEES1.25°-2C (冷媒管共巻)		
-----	空調機用集中リモコン配線	EM-CEES1.25°-2C		

機器表

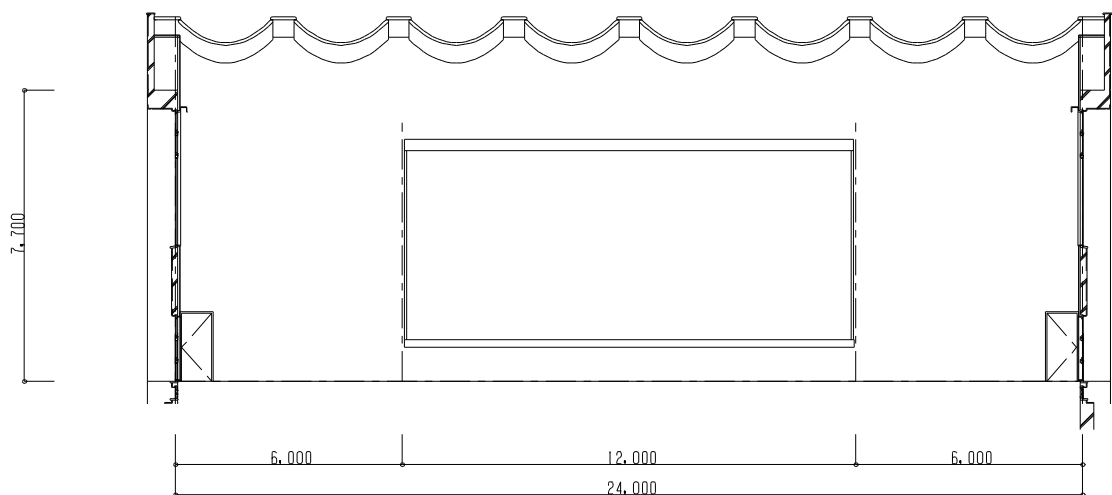
記 号	名 称	仕 様	電 気 仕 様			設 置 場 所	台 数	備 考
			φ	V	kW			
ACP 1	空冷ヒートポンプ	壁掛形 ペアタイプ 冷房消費電力 3 200 3.08	3	200	3.08	アリーナ	10	
	パッケージエアコン	冷房能力 10.0 (～11.2) kW 暖房設備 11.2 (～12.5) kW 暖房消費電力 3 200 4.23	3	200	4.23			
		フィルター、防球格子、防振ゴム、屋外機用コンクリートブロック基礎、転倒防止金物 (SUS製)						
		屋外機保護ガード、その他付属品共						
FP 1	輻射パネル	壁掛形 指定色：白色				アリーナ	10	
		防球格子共						
CC 1	集中リモコン	集中管理コントローラー	1	100		アリーナ	1	
		最大3グループ (10台) 毎の運転/停止						
		全グループ一括運転/停止						
		各室室温設定、風向設定、リモコンボックス共						
	空調制御盤	コード決済	1	100		アリーナ	1	
		注記1.電気容量は参考とする。						
		2. ACPの能力及び消費電力は、JIS B 8616に規定された定格条件による。						
		3. 屋外機への電源送りは電気工事とする。						
		4. パッケージエアコンの屋内外渡り配線配管冷媒着込みとし本工事とする。						
		5. 空調機の冷媒がR410又はR32機種とする。						
		6. グリーン購入法適合品とする (50.4 kW以下)。						
		7. 2015年省エネ基準適合品とする。						



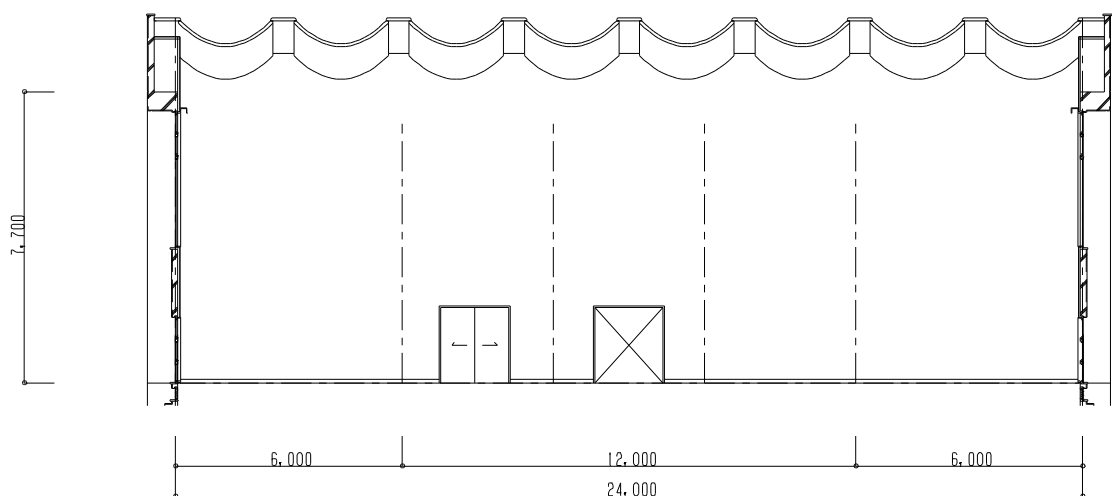
注1) 図中、はダイヤモンド穿孔箇所を示す(125φ×150L×11箇所)※尚、施工の際には鉄筋検査を行うこと。

株式会社 甲山建築設計事務所
〒1092400 東京都港区赤坂2丁目18-6
109-2400 第361265号 西 幸 博

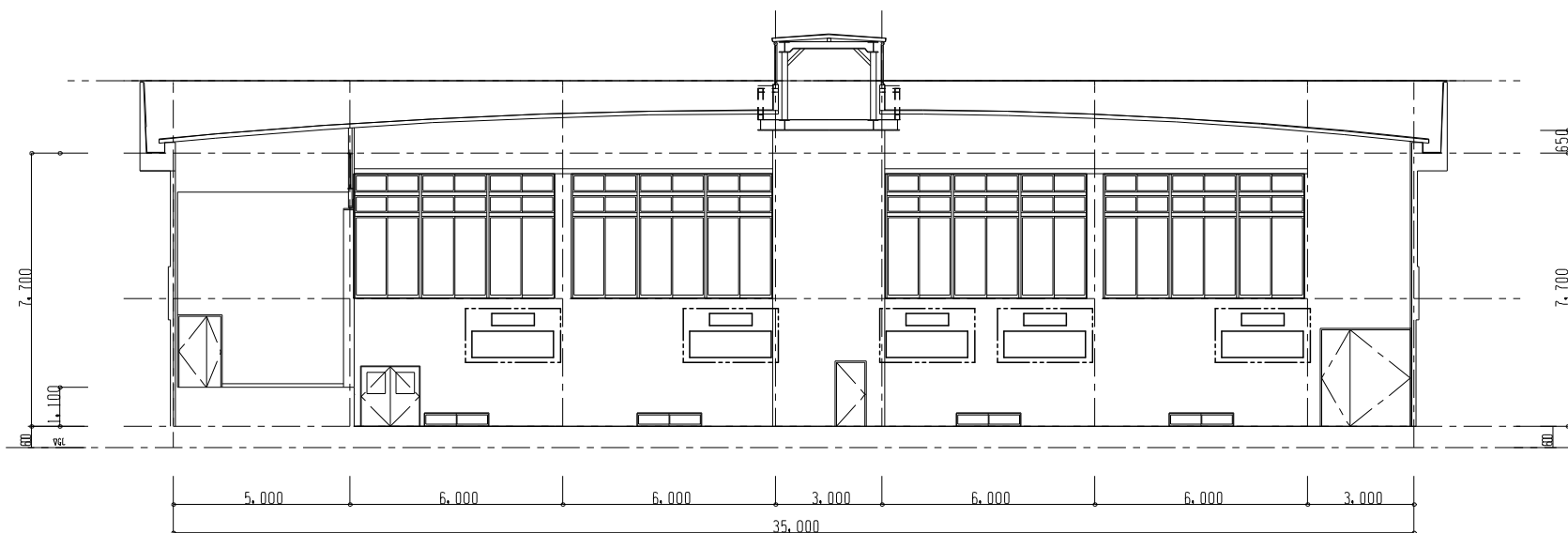
工事名	小野小学校・花鶴小学校体育館空調設備設置工事
図面名	花鶴小学校 空調設備 1階平面図
古賀市	日付 令和7.3 M-10



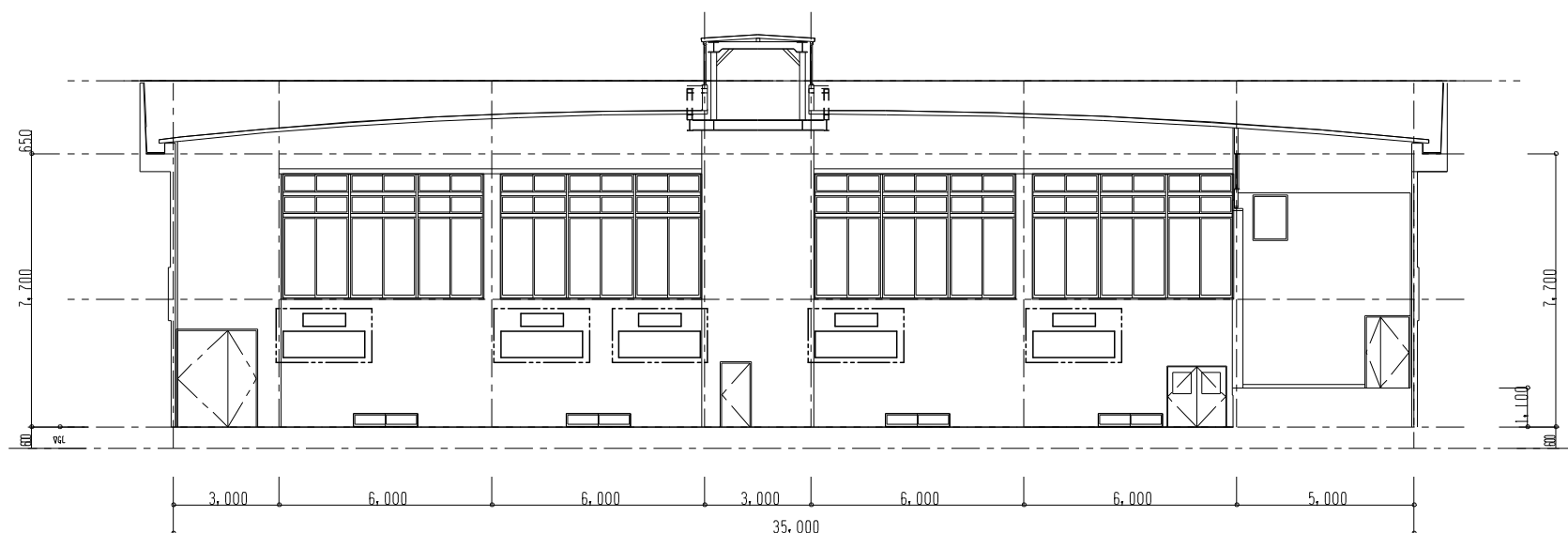
A面展開



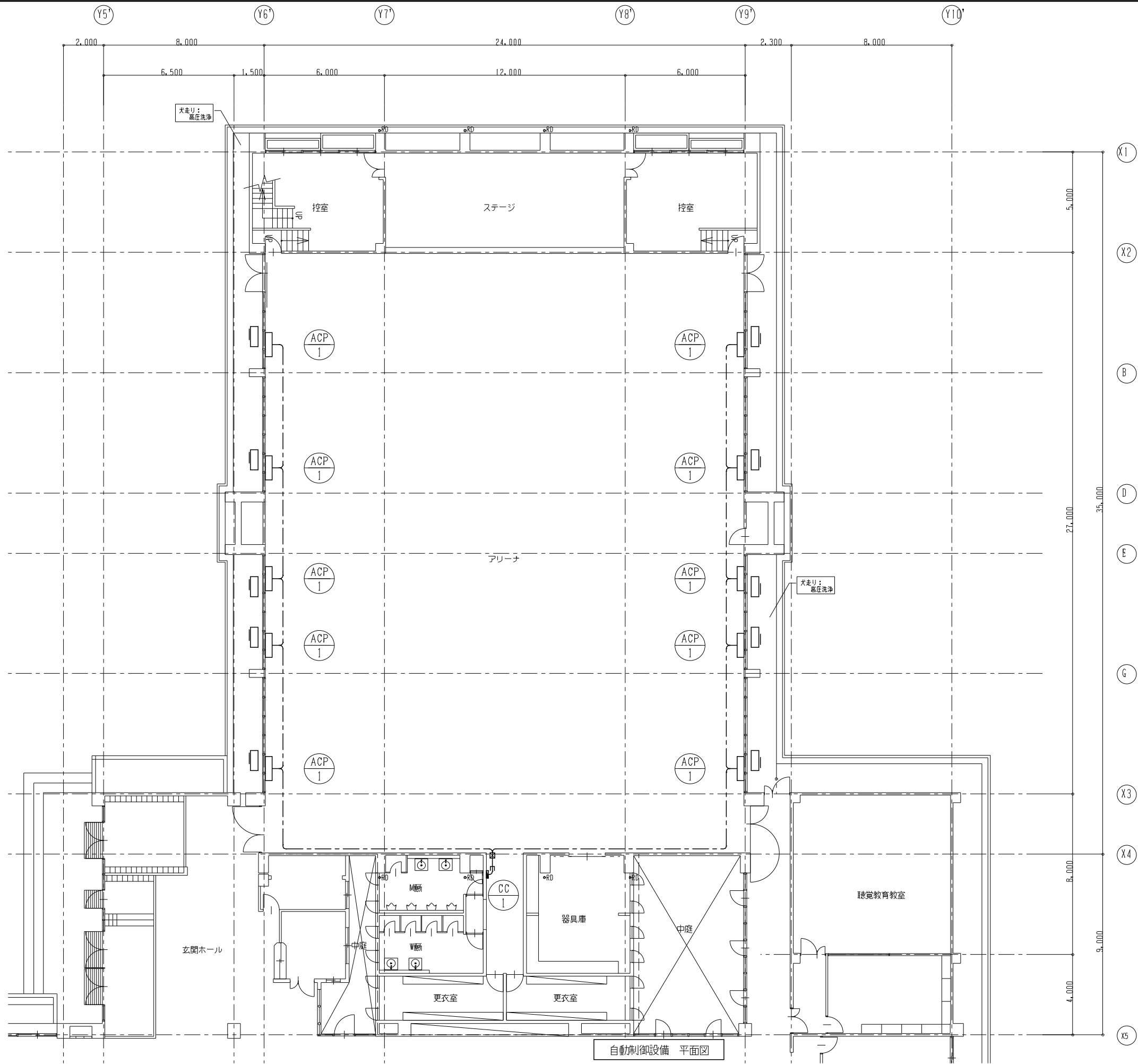
C面展開図




B(東)面展開図



D(西)面展開図



注1) 図中、はダイヤモンド穿孔箇所を示す(50φ×150L×1箇所)※尚、施工の際には鉄筋検査を行うこと。
注2) 空調機用集中リモコン配線は冷媒共巻とする。

株式会社 甲山建築設計事務所
〒1092400 東京都千代田区千代田2丁目18-6
1092400 第361265号 西 幸 博

工事名	小野小学校・花鶴小学校体育館空調設備設置工事		
図面名	花鶴小学校 自動制御設備 1階平面図	縮尺	A1:1/100
古賀市	日付 令和7.3 M-12		